

## 第 6 回熱中症対策推進検討会での主な御意見

- 熱中症特別警戒情報について、引き続き制度等について国民に周知・啓発を行い、発表される際にその理解が進んでいることが重要である。
- 暑さ指数（WBGT値）について、地形の影響、暑さ指数情報提供地点の特徴、標高の影響等に関して検討すべき。  
⇒第2回熱中症特別警戒情報等に関するワーキング・グループで議論（資料2-1参照）
- 熱中症特別警戒情報の発表基準の暑さ指数（WBGT値）35について、過去の議論を示してほしい。  
⇒第1回熱中症特別警戒情報等に関するWGで説明（参考資料5参照）
- 高齢者等の熱中症になりやすい方々に対して、自治体等でどのように見守り・声かけをしていくか、課題として取り上げてほしい。
- 熱中症特別警戒情報の発表時に解放されるクーリングシェルターについて、熱中症特別警戒情報発表時以外に、地方公共団体の取組によってはいわゆる暑さをしのぐ場所としても開放しており、平常時の使用についても啓発し、活用することに慣れる必要があるのではないか。